

## 2021年度上半期の主な活動

コロナの状況を注視しながら、劇場での公演やワークショップを行うことができ、お客様にご来場いただける機会が増えました。来年はより多くの皆さまに劇場へいらしていただけることを心待ちにしております。

### 4 青年団『銀河鉄道の夜』上演

April

4月16日（金）～18日（日）、宮沢賢治の原作を平田オリザが戯曲化した『銀河鉄道の夜』を上演しました。劇場での久しぶりの演劇上演となり、たくさんの方にご来場いただき劇場が賑わいました。

#### サンテレビでの特集

平田オリザ・江原河畔劇場についての特集が組まれました。アーカイブが下記のURL・右記のQRコードからご覧いただけます。<https://sun-tv.co.jp/special/from-toyooka-to-world>



青年団『銀河鉄道の夜』



ちっちゃい姫とハカルン博士



知念大地 大道芸



青年団『百メートル』



『舌切り雀』上演風景



児童劇団



児童劇団

### 5 地域の中学生の職場体験

May

豊岡市立日高東中学校2年生5名が、3日間の職場体験に来ました。照明ワークショップや、衣裳のケア、市内を巡ってのチラシ配布、公演でのお客様の誘導など、劇場勤務の仕事を体験してもらいました。

### 6 幼稚園・保育園での訪問公演

June

コロナ禍で様々な制限を受けた子どもたちに芸術を届けるための豊岡市の取り組み「THEATER豊岡」事業の一環で、青年団の子ども向け知育演劇『ちっちゃい姫とハカルン博士』と、知念大地さんによる大道芸を豊岡市内の各幼稚園や保育園を訪問して上演しました。

#### 青年団『百メートル』『コントロールオフィサー』公演

6月25日（金）～27日（日）にかけて、青年団による二本立て公演が行われました。陸上100m走オリンピック予選決勝の控え室が設定の本作は、東京オリンピック直前の時事ネタ満載の2021年度バージョンで上演されました。

### 7 障害者福祉施設の利用者の方々に劇場に招いての公演

July

「THEATER豊岡」事業として、青年団俳優 山内健司による『舌切り雀』、『ちっちゃい姫とハカルン博士』、知念大地さんによる大道芸の3つのプログラムを江原河畔劇場で上演し、福祉施設の方や特別支援学校の方々にご来場いただきました。

### 8 出石特別支援学校の劇場でのワークショップ

August

江原河畔劇場が「THEATER豊岡」事業として実施した今回の演劇ワークショップ。普段は職員が学校や企業へ出向いてワークショップを行うことが多いのですが、今回は出石特別支援学校の生徒の皆さまに劇場に来ていただきました。非日常空間である劇場に来ることもたくさんの刺激があります。

#### たじま児童劇団発足

劇場設立プロジェクトのクラウドファンディングで公約に掲げた「児童劇団の創設」。5月にメンバーの募集を行い、8月、小学生の部と中学生の部それぞれの活動を開始しました！現在中学生の部は、1月の公演『十五少年・少女漂流記』に向けて準備を進めています。

### 9 豊岡演劇祭2021

September

残念ながら、今年の豊岡演劇祭は兵庫県に緊急事態宣言が発令されたことを受け中止となりました。公演は中止となりましたが、江原河畔劇場では創作の場を守るため、感染症対策をとりながらレジデントカンパニーである劇団青年団が演劇祭での上演予定作品のクリエーションを続けました。

# 江原河畔劇場 通信 特大号

2021年12月 発行

2020年4月の開館以来続くコロナ禍の中でも、江原河畔劇場は、感染症対策を徹底した上で、表現の場を守り、地域の文化拠点となるべく活動を重ねてまいりました。しかし、未だ特に遠方の皆さまには劇場へお越しいただくことが難しい状況が続いております。そこで、通信という形で少しでも劇場の活動や施設の様子をお知らせできればと思い、通常、劇場Facebookと豊岡市日高地区の回覧板で配布している「江原河畔劇場通信」の特大号を発行し、ご支援いただいた皆様にお届けしようと企画いたしました。皆様に気軽に劇場へお越しいただける日を心待ちにしつつ、まずは誌面でお楽しみいただけますと幸いです。

## 芸術総監督のこぼれ

劇場の役割とは何でしょう。

市民の皆さんにとってそれは、演劇を観に行くところ、音楽を聴きに行くところかと思います。しかし劇場の役割はそこにとどまりません。ワークショップや教育普及活動、そして演劇を創ることも劇場の役割です。

私はそれをよく病院にたとえます。

総合病院は、もちろん病気や怪我の治療もしますが、健康相談や健康診断も行います。今回の新型コロナのような問題が起これば、地域の医療や防疫活動全体にも責任を持ちます。そして大学病院などでは、新しい医療技術の開発や新薬の研究も行われています。それらを総合して、私たちは「病院」と呼びます。

劇場も同じです。すぐれた作品を皆さんにお届けするのは劇場の当然の使命ですが、演劇の楽しみ方や創り方を知らせるのも劇場の仕事です。そして何より重要なことは、人類共通の財産となるような作品を、一つでも多く生み出していくことです。

江原河畔劇場はきわめて小さな民間の小劇場ですが、「劇場」が果たすべきすべての役割を、限られた予算の中で過不足なく展開したいと考えています。たとえ私立であっても、地域の文化活動全体に責任を持つのが劇場の役割です。

昨年三月の開業から一年半、コロナ禍に見舞われながら、江原河畔劇場は奇跡のような発展を見せてきました。平均するとほぼ二月に一回程度、何らかの上演が行われ、いまでは日高地区の皆さんには、日常に演劇があることが当たり前のようになってきたかと思います。

日本では、演劇を観に行く理由は「好きな俳優さんが出ている」「有名な演出家が演出をしている」といったものが多いかと思います。欧米では、多くの演劇ファンは劇場の会員となり、芸術監督によって選ばれた年間プログラムを楽しむようになってきました。小さな地方都市にも劇場があり音楽ホールがあり、スポーツジムに通うように人々は芸術を楽しみます。私たちは豊岡、但馬に、このような「劇場文化」を定着させたいと願っています。

一方、豊岡市では現在、小学校六年生と中学一年生が演劇的手法を使ったコミュニケーション教育の授業を受けており、来年度からはこれが小学校一年生にも開始される予定です。また今年度からは、但馬圏域のすべての高校でもコミュニケーション教育が始まりました。江原河畔劇場はそういった授業のための人材派遣や教員の研修などにも取り組んでいます。

地域に根ざして世界へと羽ばたく日本一の民間小劇場を目指して、江原河畔劇場は、これからも研鑽を積んでいきたいと思っています。

江原河畔劇場芸術総監督 平田オリザ



# 江原河畔劇場の内部をご紹介します！

劇場の様子を写真でご紹介します！円山川の絶景を望む、手作り感と温かみのある劇場です。

劇場ロビー



円山川を一望できるテラス



俳優志賀廣太郎らから寄贈された書籍を中心とした図書コーナー



劇場内にはかつて青年団の舞台美術で活躍した装置があちらこちらに。ロビーで象徴的なグリーンのパネルは『S高原から』舞台美術で使用したもの。



クラウドファンディングでご支援いただいた方のお名前入りの椅子もあります。



劇場の看板と搬入口



ロビーから見える円山川。季節によって表情が変わる様子も美しく、お客様が思わず足を止めるほどの絶景です。



1階劇場

140名収容の小劇場。天井を梁ごと持ち上げ、劇場空間を作りました。剥き出しの立派な梁もかっこいいです！客席は自由に組み替えが可能で、臨場感ある舞台が楽しめる自由な空間が魅力です。



2階スタジオ

窓から円山川を望む開放的なスタジオ。小規模公演ができる設備あり。1階の劇場の天井を持ち上げたため、スタジオの床も底上げされ、窓が床面より下から始まるおもしろい設計に！



劇場入口  
地元の子供たちとワークショップをして円山川の石を敷き詰めました。



クラウドファンディング銘板  
クラウドファンディングでご支援いただいた方のお名前。階段の壁面に掲示されています。



平田オリザの自転車  
16歳で自転車世界一周したときの自転車が劇場内のどこかにあります。ご来場の際はぜひ見つけてください！



床から窓！？



# たじま児童劇団 活動開始！

今年8月に発足した「たじま児童劇団」は、小学4年生から高校2年生まで29名が月に1~2回ほど活動しています。江原河畔劇場を拠点に、小学生の部（講師：劇団青年団所属俳優）と、中高生の部（講師：平田オリザ）に分かれて、演劇のワークショップや本格的な創作に取り組んでいます。中高生の部は、1月に平田オリザによる書き下ろしの新作『十五少年・少女漂流記』を上演します。劇場のFacebookで公開しているスタッフによる活動レポートの中から一部を抜粋いたしました。



【小学生の部】8月1日（日）

活動初日でした。みんな緊張とわくわくを同時に感じているような雰囲気。まずは打ち解けるためのゲームを中心にスタートです。『ハンカチ落とし』『だるまさんがころんだ』や、劇場全体を使った『かくれんぼ』『けいどろ』。みんな楽しそうにどんどん仲良くなっていく中、大人たちはもうヘトヘトです(笑) 遊びごとに一人一人の個性が見えてきて面白い体験でした。

【中高生の部】8月8日（日）

中高生の部の活動初日！みんなやや緊張気味な様子…。はじめに、みんなで円になって早口で一言自己紹介を順番にいきます。一見簡単そうですが、早口なので意外とみんな噛んでしまったり、何て言うか考えている間に自分の番が回って来てアワアワしてしまったり(笑) 少しみんなの緊張もほぐれてきて、3周くらいすると個性も少しずつ見えてきました。



【小学生の部】9月4日（土）

小さな発表会を開催しました。前回の活動日に、自分たちの団体名を『とよとよシアター』と決め、チーム分けと劇の創作、題名も考え、宿題の広報活動（手作りポスターと家族への宣伝）もして、いよいよ本番当日を迎えます。一家族2名様までという制限ではありましたが、多くのお客さんが足を運んでくれました。子ども達はキンチョーするかと思いきや…堂々たるもの！ 笑い・驚き・感動ありのすばらしい発表で、客席で観ていたオリザさんもめちゃくちゃ笑ってました。



終了後に家族のもとへ走って行って「どうだった!？」と積極的に感想を聞く子ども達。お客さんも「よくこの短時間で作れたね」「すごい！」と彼らの発想力を褒めてくださり、みんなとても満足そうでした。

【中高生の部】9月26日（日）

まずはストレッチで身体の動き方・体調を観察。さらに発声・筋トレ。次に、複数人が同時にバラバラの一文字を発し、それを組み合わせた単語を当てる「聖徳太子ゲーム」。チームで協力して聞き分けます。その後テキストが配られました。三人の登場人物が電車のボックス席で話をしているところから始まり、一人が席を立ち、二人が残されることで関係性の変化が見えてくるというテキストです。まずはそれぞれのグループにオリザさんが色々なパターンの演出をつけます。次に各チームで登場人物の関係性を考え、さらに、テキストにない「最後の台詞」を考える創作にも取り組みました。発表では「一触即発の友人同士」「訳ありカップル」「プラコンの兄妹」など様々な関係性が誕生しました。オリザさんの講評では、観客の想像力をコントロールする演出の役割について考えました。最後に、オリザさんから1月の公演についての構想の一部が発表され、一同どよめいてこの日の活動は終了。これからの活動もますます楽しみです！

